歴史新聞 ～上杉謙信～

立町中学校
共栄更音
1年B組
北野舞子

上杉謙信は人物となり？

上杉謙信の生涯について

上杉謙信は一五三十年、越後国、今の新潟県で父の長尾為景の四男として生まれ幼いころから寺で修行し、十五歳で初陣。十九歳で当主となりました。負けなしの上杉謙信は越後の龍と呼ばれ織田信長も上杉謙信に敗れています。敗戦数七十回中わずか二回と圧巻の強さです。そんな強い上杉謙信にも一人のライバルがいました。その名は、武田信玄。戦国時代の宿命のライバルと言われる男です。十二年間にわたって五回戦いましたが、結局、決着はつきませんでした。「敵に塩を送る。」という言葉をご存知ですか？意味は、敵の弱みに付けこむようなことはせずに、逆に救おうとすることを表す言葉です。この言葉が生まれたのは、塩を買えなくて困っていた甲斐（山形県）の武田信玄に、当時対敵していた謙信が塩を送った話から生まれました。海のない甲斐では、今川家から塩を買っていたのですが、後に敵対したため輸送を止められてしまったのです。そして、謙信は自分から塩を送りに行ったと言われています。

上杉謙信は実は女性だった!?

上杉謙信は女性だったという説があります。まず、スペイン内戦の際に、使われたトレドの修道院から十五世紀～十六世紀の日本についての文書が発見され、その文書に「上杉景勝の叔母。」という言葉が発見できたと主張しています。そして、「叔母が開発した佐渡金山を所有していた。」と書かれていたことから、上杉景勝の叔母にあたる人物は上杉謙信です。なので女性説が本当かもしれません。また、民衆の間で謙信が女性であることをそのままにした歌が流行していたことや、筆跡が女性らしいところ、恋愛小説を好み、読んでいたところなどが女性説の根拠となったもののようです。しかし、女性であるという正確な理由もなく、いまだにわかっていません。

上杉謙信の死因はお酒!?

上杉謙信が三十六歳の時に、病にかかりました。病で左足が不自由になり、そのストレスで梅干しを肴（おつまみ）に酒を飲み、アルコール中毒と高血圧になってしまいました。ある寒い日の朝に、便所（トイレ）に行き、立ち上がったときに、めまいを起こし、倒れ、四日後の一五七八年、四月十九日に死亡しました。死因もいろんなことを言われていますが、主に、お酒による脳卒中（脳溢血など）と言われています。上杉謙信は、酒と一緒に梅干しも食べていたことから、塩分の取りすぎで、死亡したとも言われています。

上杉謙信が白い布を巻いている理由は、丸坊主だからという理由と、法衣といって、下に着る衣服だからなど、理由はさまざまです。

上杉謙信名言集

上杉謙信は多くの名言を残しています。その名言について、何個か紹介したいと思います。一つ目は、「武士になれば、わが進むべき道はこれほかなしと、自らに運を定めるべし。」です。この名言の意味は、自分が進むべき道に覚悟を決めて行けという意味です。個人的には、この名言が一番好きです。二つ目は、「死なんと戦えば生き、生きんと戦えば必ず死するものなり。」です。この名言の意味は、死ぬ気で戦えば勝つ、生き残ろうと戦えば死ぬという意味です。三つ目は、「運は一定にあらず、時の次第と思うは間違いなり。」です。この名言の意味は、一定の周期で運がめぐってくるなんて思うなという意味です。最後は「人の落ち目を見て攻め取るのは、本意なり。」です。この名言の意味は、弱っている相手を攻めるなんてダサいという意味です。このように上杉謙信には、たくさんの名言があります。上杉謙信は、お酒好きなので、お酒に関する名言までがあります。気になる方は、調べてみてはいかがでしょうか？

編集後記

私は、もともと戦国時代に興味があり戦国武将のことについて調べられて、良かったです。特に、上杉謙信は、圧倒的な強さがあり、前から気になってはいましたが、この新聞を作るために、上杉謙信のことについて深く知れたことがうれしかったです。特に深く知ったことは、上杉謙信の死因についてです。お酒だと知った時は、びっくりしました。今後もたくさんの武将を深く知っていきたいです。

十勝毎日新聞